

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0171500739		
法人名	医療法人社団恵翔会		
事業所名	グループホームめぐみ A棟		
所在地	北斗市本町2丁目7番7号		
自己評価作成日	平成28年10月9日	評価結果市町村受理日	平成28年11月15日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kan=true&JigrosyoCd=0171500739-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成28年10月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

クリニックと併設しているため、個別の健康管理や、日中の体調の変化に合わせての診察や、夜間の緊急連絡の対応が整備されていると思います。地域の方の協力のもと、家庭菜園を一緒にしたり、訪問して下さるボランティアサークルさんも増加傾向にあり季節の行事も、全体行事として夏祭り、クリスマス会を初め、流しそうめん、イモ煮会、JRを利用した大沼ツアーなど個別や少人数に合わせた行事の取り組みをしております。施設理念である「尚仁」～思いやる心を～常に持ち、安心した生活が送れるよう支援しております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホーム めぐみ」は、大きな通りから少し奥まった静かな住宅地に位置し、近くには交番や郵便局、大型スーパーがあり、日常生活をするうえで便利な場所である。建物は洋風の平屋造りで、玄関を中心に2ユニットが左右に分かれている。併設の内科病院とは渡り廊下でつながっており、受診時は天候を気にする煩わしさはなく、居室からスムーズに行けることが利点である。事業所理念の「尚仁」(思いやる心)は、定期的に発行する事業所便りの真ん中に掲げ、職員・家族で理念を共有して利用者を共に支えている姿勢がうかがえる。職員は、利用者楽しんでいただくとう季節毎にイベントを企画し、秋の芋煮会はジャガイモ料理を数種類用意して、バイキング形式で好きなものを自由に食し、時には「めぐみ寿司」と称して、職員が握ったご飯の上に、一人ひとり好きなネタをのせて食べる、寿司気分の食事をやって、楽しみ事の機会を多く確保している。職員は常に笑顔を忘れず、「思いやる心」を大切にして、日々研鑽を積んでいる事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(A棟)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念、スタッフ理念ともに来訪者や、スタッフが確認しやすいよう玄関に掲示し、入社時に支給するバインダーにも記載しており、思いやる気持ちを持ち実践に生かしている。	事業所理念を玄関に掲示し、毎月のミーティングでも管理者と職員全員で確認し、実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に入会し、町内会清掃、文化祭、七夕、散歩、家庭菜園や近くのスーパーの買い物などを通じ地域社会への繋がりに努めている。	日常的に散歩に出かけ、ご近所の方と挨拶を交わしたり会話をしている。町内会の春の清掃活動に参加したり、町の文化祭に作品を展示している。また、事業所の行事の時はフラダンスや民謡などのボランティアを積極的に受け入れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議等で、認知症の研修の発表や、ホームの行事の参加、近隣の方とのコミュニケーションの中で認知症を理解してもらえよう協力関係の強化に努めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	市の職員、包括支援センターの職員、ご家族様に参加していただき開催し、行事、避難訓練、事業所の取り組みを報告し、意見や、助言をいただきサービスの向上に努めている。	行政、包括支援センター、家族の方々が出席して定期的に開催している。利用者の日常の生活振りや行事の様子をスライドショーで報告し、新入職員の紹介もしている。出席者から意見や要望・アドバイスをいただきサービス向上に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	連絡や報告の他、運営推進会議への参加協力を求め関係性の強化に努めている。	市担当者とは制度改正時などの機会に積極的に相談をし、アドバイスをいただき連携を深めている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	現状身体拘束の対象となる方はおりませんが、身体拘束廃止マニュアルを整備し、職員も禁止行為を守り、実践している。	身体拘束禁止マニュアルは身近な場所に保管し、いつでも閲覧可能にして徹底理解を図っている。管理者と職員は気づかないうちに言葉でさえぎったり、行動を抑えていないか日常的にチェックし、利用者が抑圧感のない自由な暮らしが出来るよう取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待の研修等に積極的に参加し理解を深め、虐待防止を常に意識し対応に努めている。		

グループホーム めぐみ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(A棟)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する制度の理解に努め、後見人制度の研修会に参加し、実際に利用する際に関係者、スタッフ間との連携に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約・解約時に不安などがないように説明や、確認を行い、改定時にはお手紙や電話で、納得と理解を得られるように対応している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議を始め、面会時やお手紙、電話等を通じ意見、要望を確認出来る関係性作りに努め、それらの反映に努めている。	些細な意見や要望でも遠慮なく気軽に表出する機会を多く設け、それらをミーティングで話し合い運営に反映している。毎月の手紙の発送方法を速やかに改善し、家族の信頼にこたえている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々の業務や、ミーティングを通じ管理者は職員の意見や要望を聞ける関係性を築き、業務上で反映している。代表者へもミーティングや管理者を通じ報告し改善に努めている。	代表者は、毎月開催するミーティングに出席して、直接職員から意見を聞く機会を設けているが、把握しきれない部分や業務上での気づきを管理者が、都度伝え運営に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	ミーティングや管理者を通じ代表者へ状況報告し、就業環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修内容の張り出しスペースを確保し、希望を元に選定し、職員の向上に繋がるよう研修の参加や、施設内研修の実施を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH協会の研修を始め、同業者との交流を持てるよう、研修の参加の強化に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(A棟)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面談等で本人のニーズに耳を傾け、安心して利用出来るよう努め、ショートステイから慣れてもらうなどの取り組みをしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事業所見学の際や、相談の連絡時等に困りごとに耳を傾け、相談をしながらサービスの提供が出来るように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の面談等で得た情報や、本人のニーズを元に現状必要しているほかのサービス利用も含めた支援を提供できるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の意思を尊重した上で、畑いじり、調理の下ごしらえなど、一緒に出来ることを探しながら共生していけるようにしている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	電話や、手紙等で情報を共有し、気兼ねなくお出かけや、面会等、一緒に本人を支えられるような関係性作りにも努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近所の散歩や、希望の場所へのドライブ、地域の行事や、地域のボランティアを通じ馴染みの人や、場所との関係性の保持に努めている。	知り合いの方が将棋の相手をする為に訪れたり、知人に会いに行く時は職員が送迎をして、これまでの関係が継続できるよう支援している。自宅の様子を見に行きたい利用者には、職員が同行している。毎月家族と一緒に外出、外食をする利用者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の状態を把握し、時にはスタッフが間に入りながら本人の意思に沿って係わり合いを持てるように日常生活を過ごしてもらっている。		

グループホーム めぐみ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(A棟)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された後も、本人や、そのご家族様とご近所付き合いいや、必要に応じ相談や支援が出来る体制にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	プラン作成時に直接本人に意向の確認を行い、難しい場合も、日々の関わりの中で、本人の思いやサインを汲み取り、希望に沿えるような支援が出来るように努めている。	利用者に常に笑顔で接し、話しかける時は声の高さや抑揚に配慮し、些細な事でも遠慮なく話せる雰囲気づくりを心がけ、困難な時は表情や行動から推し測ったり、家族から情報を得て本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に使用していた家具を持ってきてもらう、本人が今までどのような生活を送っていたのか、ご家族様、本人、関係者からの情報や、日々の生活の中からも把握に努め、自宅暮らしに近い生活を送っていただけるよう支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	レクリエーションや、一緒に家事をしていく中で、本人の状態を観察し把握に繋げられるようスタッフ間の情報の共有も重要視している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、ご家族様の意向をもとに、日々の業務、ミーティングで職員や、主治医と相談し、現状に即したプラン作りに努めている。	利用開始時は暫定的に1か月の介護計画を作成し、その後はモニタリングを行い、本人、家族の意向や主治医の意見書などを基にカンファレンスを行って、急変化がない時は3か月、5か月毎に現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別のケース記録への記載、日々の業務や、カンファレンスにて情報を共有し、実践に活かし、プランの見直しに努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	災害時の空室提供等、状況に合わせた多機能にわたる柔軟なサービスの提供が出来るよう取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	毎年依頼している地域ボランティアに加え、年々ボランティアとの交流と種類が増えている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	併設病院以外にも、本人やご家族様の希望や、適切な医療を受けられるよう、医療機関との連携に努めている。	整形外科や眼科、歯科などの受診は職員が同行し、結果は併設病院医師や家族に即報告をしている。夜間は看護師と連絡が取れる体制を整え、24時間適切な医療を受けられるように支援している。	

グループホーム めぐみ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(A棟)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設した病院での定期診察外でも、状態報告や、必要時は受診が可能で、夜間、休日ともに併設病院の看護職員と連絡を取り相談や指示をもらい適切な対応が出来るような体制をとっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	本人との面談時や、ご家族様、病院関係者と連絡を取り合い情報を共有しながら、併設病院や、スタッフ間で相談対応出来るように支援している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化に伴う指針の説明をした上で同意をもらい、重度化した際には医療機関と連携し、本人、ご家族様の希望に沿った支援を出来る限り行えるような支援をしている。	利用開始時に、本人や家族に事業所が対応し得る最大のケアについて十分説明し、同意を得ている。重度化した際は、状況変化に応じて医師や看護師と連携し指導を仰ぎ、本人と家族の安心と納得を得られるように支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事業所内での併設Drに協力してもらおう形での研修や、事業所外の研修へ参加し事故発生時に対する対応力をみにつけるよう努めている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防、防災会社協力のもと基本的に日中・夜間想定避難訓練を年2回企画しており、近年の災害多発に伴い水害、土砂災害の訓練も年内に予定している。近隣住民の協力を得ながら災害対策の実施に努めている。	避難訓練終了後は反省会をして参加者から様々な意見やアイデアをいただいている。町内会の方には緊急連絡網に入っただき、家族の了解を得て利用者の写真や特徴などを記載したブックを渡して、緊急時に協力を得られるように体制を築いている。自然災害に備え、対応マニュアルを作成している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の性格を把握し、人格を尊重した上で本人にとってわかりやすい言葉掛けや、その人に合った言葉掛けをしている。	本人の気持ちを大切にし、心地よい話しかけや声かけをする様に心がけ、誇りやプライバシーを損ねない対応をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が自己決定したり、希望の表出が出来るよう日々の会話の中で気持ちを汲み取れるように努め、時には確認しながら支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	外への散歩や、入浴の希望時など、その日の中で時間をずらしたり、調整しながら、出来る限り希望に沿えるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の希望に沿えるよう自分で身だしなみが整えられる環境の整備をしている。		

グループホーム めぐみ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(A棟)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の皮むきや、盛り付け、食器拭きなど個々の持っている力を活かし、食事の準備をしたり、買い物や、嗜好を考慮し食事を楽しめるよう工夫している。	献立は1週間毎に職員が交替で作成し、調理専門職員が作っている。利用者は、食事の一連の作業に参加して個々の持ち得る力を発揮している。菜園で収穫した野菜は食卓を豊かにしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	メニュー作成時は併設病院のDrへ確認していただき、個別にあった量や栄養状態を考え、提供時間も考慮しながら栄養、水分摂取の確保をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	本人の力を活かしながら、環境整備のもと口腔ケアを行い口腔内の清潔保持に努めている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個別の状態や、尿意、便意のサインを汲み取れるように、排泄パターンの把握に努め出来る限りトイレでの排泄ができる様支援している。	トイレでの排泄を大切に考え、排泄パターンを把握し時間を見計らったり、様子やサインを見逃さない様にして、さり気なく声かけをし誘導している。夜は失敗した時の精神的なダメージを考えて、パッドなど衛生用品を利用している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給や、運動、Drと相談のもと下剤の調整をしながら個々に合った予防方法を見出しながら便秘予防に取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日は決まっているが、個々の状態や希望に沿い温泉に行ったり、入浴剤の工夫をするなど安心して安楽な入浴支援に努めている。	利用者の希望により同性介助や温泉を利用している。管理者は足マッサージをしてコミュニケーションをとり、心身が和らぐよう努めている。その日の気分に合わせて色や香りの違う入浴剤を使い分け、入浴を楽しむ工夫をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	好みや状態に合った寝具や家具を使用してもらい、日中の休憩時間と活動時間の間隔を考慮し、夜間良眠に繋げられるよう取り組んでいる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ケース記録内に薬表を保存し内容の把握と確認に努め、薬の形状や、服薬確認の徹底、薬セットの2重確認をしながら、安全な服薬支援に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	外出支援や、縫い物、調理の下ごしらえ等本人の意思の尊重をしながら、張り合いや楽しみのある生活が送れるよう支援している。		

グループホーム めぐみ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(A棟)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望や状態に合わせてながら、散歩やドライブ、地域のイベント、御家族様や、近隣の方に協力してもらいながら外出、外泊の機会を設けている。	利用者の体調や天気の良い日は、日常的に30分程度散歩し、気分転換や五感刺激の機会としている。また、お弁当を持参して遠くの公園までドライブし、戸外での食事を楽しんでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現状金銭管理が出来る方はいないが、希望時にはいつでも使用できる事、希望の物を一緒に買い物で購入できる様個々に合わせ支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時には連絡が取り合えるよう、御家族様に協力してもらっている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	現状の利用者様の状況に合わせた物の配置や、安全に過ごせるよう工夫し、季節に沿った飾りや環境の整備に努め居心地の良い空間作りに努めている。	共有空間は、レースのカーテンを利用して日光が程よく入るように調節をしている。居間は天井が高く開放感があり、台所から居間にいる利用者の様子を見ることが出来、安全面に配慮した造りになっている。廊下には利用者が卵の殻や色紙を使って作成した季節感のある貼り絵が展示されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間や、食卓で自然に利用者様同士でお話されている事や、事務所やキッチンの前にもイスを配置し調理の姿を眺めたり、事務所のソファでくつろいでいたり、思い思いに過ごせるよう環境の整備の工夫に努めている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に以前使用されていた物を持ってきていただいたり、生活していく中で、必要な物を本人や御家族様と相談し整備し居心地良く過ごしていただけるよう工夫している。	使い慣れた家具や家族の写真を持ち込み、また、本人の身体機能の変化や生活に必要な物がある時は職員と本人、家族が相談しながら備えて、居心地よく暮らせるよう配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	その時の状況に合わせて、物の配置や、空間作りをし、部屋、トイレ、浴室などの案内プレートを用いながら安全で自立した環境作りに努めている。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0171500739		
法人名	医療法人社団恵翔会		
事業所名	グループホームめぐみ B棟		
所在地	北斗市本町2丁目7番7号		
自己評価作成日	平成28年10月9日	評価結果市町村受理日	平成28年11月15日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaikokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kan=true&JigrosyoCd=0171500739-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成28年10月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p><アピール点として> ケア理念に基づき、笑顔で接します。 ○スタッフ自身を入居者様の立場においてみて、どうケアをしたら安心と信頼を感じていただけるかを考え、日常生活のケアをさせていただいています。そして、笑顔での挨拶を基本としています。 <力を入れている点として> クリニックと併設をしています。 ○内科クリニックと渡り廊下でつながっており、持病のある高齢の方の入居も可能です。病状が安定していても、入居者様の体調の変化は、日々細かくチェックをしています。 ○日常生活の中での生活リハビリへの取組み 個々のニーズに基づいたケアプランを作成、認知機能や残存機能等それぞれの入居者様の心身の状況に添った支援をさせていただきます。 アクティブティや趣味活動等を日課とし、個別マッサージや生活リハビリで健康維持、増進を図っています。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(B棟)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎月に家族の方へ届けられるめぐみ通信に事業所理念を提示、家族と職員の共有としている。正面玄関に事業所理念・ケア理念を掲示、職員間での理念を踏まえた実践につなげている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩等の際に挨拶をしたり、町内の知り合いに逢った時には、現在の生活状況等を入居者自身で語られている。盆栽を見せていただき、友人知人が将棋を指しに来る。地域の文化祭での交流がある。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で話をする機会を設けたり、上町町内会婦人部会に出席し、近隣の方々に認知症高齢者の理解を得られるよう努めている。また、町内会のゴミ拾いに参加し、認知症対応型事業所の理解に努めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族の方に出席を呼びかけ、包括職員、市役所職員、消防の方々の参加で行事や取組み、評価結果、職員研修結果等について報告し、話し合いや意見交換後のサービス向上に活かしている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	都度に、連絡、相談、報告等で運営推進会議に参加していただき、協力関係を構築できるように取り組んでいる。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員全員が理解し、周知徹底につなげている。身体拘束をしないケアに努め、取り組んでいる。玄関の施錠は、日勤業務終了後に施錠を行っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修で学ぶ機会を作り、職員間での情報を共有し、1人ひとりが常日頃より認識を持ち、虐待防止に努めている。		

グループホーム めぐみ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(B棟)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修や講演などで学ぶ機会を設けているが、必要とされる状況の方は、現在いない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の前に面談を行い、話を聴く機会を設け、十分な説明を受けていただき、理解納得された上で同意となり、契約・解除をしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見・不満・苦情等を言える関係づくりに努め、ケアプラン作成時や毎月の手紙を郵送する際にも、意見や要望を引き出せる環境の対応をしている。また、苦情相談窓口を設置している。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は、一緒に働いている中で職員の意見や提案を聞き入れている。代表者は、管理者から伝えるほか、ミーティングの中で話し合い、職員の意見を伝えている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	有給休暇が十分に取れない状況での職場の労働環境になっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者が職員の力量や希望、目標等の向上心に合せて決め、お願いしているが、代表者からは、あまり高額な研修は、行けない状況下にある。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	職員は、研修や講習に参加しているが、同業者との交流をする機会は、少ない。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(B棟)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス利用前に面談し、直接会って話を聴く機会を設けている。本人より聴くことが困難な場合は、家族や居宅介護支援専門員、看護師等から聴き、安心できるコミュニケーションを図りながら、信頼関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談に来られた際や面談時などに話を伺える場面では傾聴し、できるだけ話を引き出せる関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族と話をした上で、必要な支援を提供できるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活と一緒に過ごされるなかで、助けていただく事も多々ある。個々にコミュニケーションを図り、喜怒哀楽を共にしている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や月1回の手紙等で家族とのコミュニケーションを図り、一緒に本人を支えていく関係を構築できるように努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	重度の認知症であったり、地元以外の入居者もいるが、知人や友人が会いに来ている方もいる。また、希望をされる場合は、外出・外泊の支援をしたり、できるだけ地域の行事に参加をするようにしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤独にならないように一人ひとりの生活リズムに合わせ、一緒に体操をしたり、歌のTVを視聴したり、ティータイムを共に過ごし、コップを下げあったりしている。また、できる範囲内での家事仕事を一緒にやっている。		

グループホーム めぐみ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(B棟)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて相談や支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎月のミーティングや必要時に検討し、病状によっては、困難な場合もあるが、できる限り本人の意向に添った、暮らし方となるように努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時情報や、解かる範囲内で本人、家族から聞き、面会時にも協力を得て、把握できるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の様子を観察・記録し、申し送りや職員間で伝え合うことで、職員全員が情報を共有し、把握できるように努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族の意見や要望、職員の意見やアイデアを聞いたうえで、主治医の指示もふまえ、ケアプランを作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を記録し、職員間で情報を共有しながら実践し、モニタリングをしたうえで新たなニーズを見出し、ケアプランの見直しをしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	突発的な外部受診や救急対応等、その都度に対応できる支援やサービスに努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	警察には、入居者の写真と特徴を記入したファイルを提出し、単独行動の際に保護をお願いしている。消防には、避難訓練や火災・救急時の対応で協力体制にある。ボランティアには、慰問で来ていただいている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	内科病院と併設しており、都度相談し、指示を得て支援をしている。希望があれば、併設している病院以外でも受診介助の支援をしている。		

グループホーム めぐみ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(B棟)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	平日は、併設病院に3名の看護師がおり、定期診察以外にも相談・報告をしながら支援をしている。夜間、休日は、併設病院の看護師が交代で緊急電話を携帯し、病状の相談や指示をもらい、適切な対応が取れる体制になっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、看護師や相談員と面会時や電話で連絡を取り、情報交換を行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約前に重度化に伴う方針を説明をしたうえで同意書を本人・家族と結んでいる。医師が重度化を判断した段階で医師、看護師、家族、管理者で話し合いを行い、看取りはしていないが、できる限り本人や家族の意向に添うように努めている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	施設内研修として、AEDの講習・物を詰らせた時の対応方法・脳卒中になった時の緊急処方等事故発生時に対応できるように努めている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、避難訓練を実施している。そのうち1回は、夜間想定で行い、家族や近隣の方々にも協力をお願いしている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの性格を把握し、人格を尊重した上で、その方にとって解かりやすい言葉がけや、その方に合わせた対応をしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	毎日の生活の中で本人の希望や思いを言い出しやすい雰囲気作りや声かけの仕方に努め、自己決定ができる環境を整えた支援をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	状況や病状に応じて、できる範囲内で希望に添えるよう支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	家族が選んだ洋服やスカーフ、カチューシャ、好みの色など、その人らしい服装ができるように支援している。また、入浴後にボディ・フェイス共にお肌のお手入れも念入りしている。		

グループホーム めぐみ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(B棟)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の皮むきなどの食事の下準備やテーブル拭き、食器拭き等、できる方は無理のない範囲内で行っている。また、季節の食材を献立に取り入れ、楽しく食べる事への意欲を季節イベントに組み込んでいる。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	量や形状は、一人ひとりに合わせ、病状によっては、主治医からの指示があり、栄養のバランスも調整している。飲水摂取量は、1日1, 200ml~1, 500mlを目標に提供をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの力に合わせた口腔ケアを行い、口腔内の清潔を保っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表にて、一人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレ誘導をしている。身体状況にもよるが、できる限りトイレでの排泄ができるように支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	なるべく下剤に頼らずに、排便を促す手作りの飲み物で対応をしたり、運動ができる方には腸の活動を誘発する動きを支援し、腹部マッサージなども行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴を希望される事は無い為、一週間に2回で曜日や時間は決めているが、状況に合わせて、いつでも入浴できるようにしている。また、入浴剤の種類を替え、楽しめる工夫をしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの身体状況に合わせた安心安楽な環境作りに努め、日常生活の中での休息や安眠になるように対応をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	理解・症状の変化の確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	働く意欲の見られる方には、家事仕事をお願いしている。気分転換に散歩やドライブなどの機会を設けたり、室内での歌が好きな方には、ビデオやCDを提供している。行事や誕生日会なども行っている。		

グループホーム めぐみ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(B棟)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	できる範囲内で散歩やドライブ、買い物などの支援をしている。地域の行事にもできるだけ参加をし、普段では行けない場所にはイベントやドライブとしての行事計画を立て支援をしている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理が困難な方には、施設管理としている。本人の希望される物がある場合は、いつでも使用可能なことは、伝えている。一緒に買い物で購入できるなどそれぞれの力に対応した支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人や家族の希望により、自室に専用の携帯電話を置かれている方が1名います。何時でも自由に通話をされている。その他の希望があれば、電話をかけていただいたり、年賀状を準備し代筆をしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居心地良く過ごせる空間作りに努めているが、季節に合った飾りつけは、異食がある方がいるため、手の届かない場所のみ飾っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	1人になりたい時は、自室で過ごし居間や食卓などの共有空間では、自由に出入りし、リラックスできる雰囲気作りに努めている。事務所ベランダで日光浴など思い思いに過ごせるよう環境の整備や工夫に努めている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に説明はしていても、新しい物を購入してきてしまうことが多く、ベッドや布団など、それぞれできるだけ使い慣れた物を使用していただき、居心地良く過ごせるように努めている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	浴室に滑り止めマットを敷いたり、要所への手すりを設置している。食事の際の椅子は、それぞれ手すり付きや付かない物、座面が高い物などは、両足が床面に着かない場合、足台を使用する等の工夫をしている。		

目標達成計画

事業所名 グループホーム めぐみ

作成日：平成 28年 11月 14日

市町村受理日：平成 28年 11月 15日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	34・35	・2名で夜勤を行う為の、人員の継続的な確保。	・人員募集を継続し、職員の確保をする。	・継続して職員を募集し、続けて働ける環境づくりをする。	1年
2					
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。